

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ 合同研究会
第40回 議事録

1 日 時 平成24年10月20日(土) 11:00~12:45

2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)

3 参加者 16名

うち 本学学生 4名

本学事務局 3名

4 内 容

(1) 幼小接続研究からみた「一日体験入学」の位置付けと意義(善野代表)

○ 「一日体験入学」の目的の明確化

現在の子どもの姿から目指す子ども像(Vision)実現のための取組においては、PDCAサイクルの中で Research することから始め、幼小の教職員が大切にしたいことの共有化が重要である。

○ 幼小連携のステップ

Research の効果的活用を図り、カリキュラムメーカーとしてまたカリキュラムユーザーとして、次の7つのステップの基本を大切にする。

[(1)~(7)のステップ]

(1) 情報交換…育ちと課題の受け渡し

(2) 情報交換…学校・園だより

(3) 教師の交流…相互訪問

(4) 教育課程の交流…合同授業

(5) 年間計画への位置付け

(6) 連携・接続カリキュラムの作成

(7) 連携・接続カリキュラムの見直し

○ 幼小交流授業の具体的事例の紹介(写真による提示)

・「算数授業体験(色板あそび)」

・「音楽体験授業(和太鼓で遊ぼう)」

・「幼稚園の読み聞かせ絵本から、小学校の国語の教科書へ」

・「体育・理科・音楽の先生と遊ぼう」

・「小学生とランチタイム」

・「幼小合同七夕まつり」

・「一日体験入学」から「学校ごっこ」へ

交流目的を確認し、「体験あって学びなし」とならないことが大切である。

○ 接続カリキュラム作成のキーワード(これまでの合同研究会での学びの確認)

① 「三つの自立」…「生活上の自立」、「学びの自立」、「精神的な自立」

② 学びの基礎力…(知・徳・体)

③ 「6つのとまどい」…(時間・空間・人間・もの・技能・心情)

幼小接続では、教師の姿勢が「援助・支援から指導へ」と変わっていく中で、上記①~③を目的として意識し、その上で接続カリキュラムを作成していくことが大切である。

(2) ワークショップのまとめ（今回は全体協議方式：ボードミーティング）

① ワークショップの意図及び方法について説明（善野代表）

- ・ 幼小連携の目標を中心に据えて、幼児教育と小学校の各立場で「1日体験入学」の実践経験から、成果（よかったと思われる事、よかったと感じる点）と課題（残念だった事、こうすればよかった点）を付箋紙に個々に記載してから発表し合い、意見交換する。

② 参加者の発表及び意見、善野代表からの助言（紹介実践への助言と評価）

[成果] …幼児教育の立場から

- ・ 5年生の子どもが主役となり「学校案内」をグループで行動したことにより、園児は安心感をもつことができた。（子ども目線で施設紹介ができた点がよかった。他施設の園児との混合グループも意味がある。）
- ・ 筆箱など小学生の持ち物を見せてもらったことにより、園児たちは個人持ちという新鮮な意識を抱けた。（幼稚園では文具などは共有物として扱われていることが多いためであるが、新しい視点での発表内容である。）
- ・ 「一日体験入学」では、1年生が暗記して群読を披露してくれたことにより、園に戻ってからも園児たちの間で声の大きさが話題となった。（小学校では声の物差しとして、小学生に発言時にふさわしい声の大きさを意識付けている場合がよく見られる。）
- ・ 園児たちは、通学路確認、危険回避能力の育成など安全面での地域ぐるみの取組を体験しており、地域の人々や保護者が関わった交流も経験している。（地域の人々や保護者という視点は、今後「一日体験入学」という学校行事にどのように関わらせていくかである。）
- ・ 「一日体験入学」につなげていくプレ段階の取組として、小学校教師が幼稚園に来てくれて絵本を読んでくれたことも意味があった。（子ども同士のとまどいもあるが、教師との出会い方にも大きな戸惑いが実際にはある。入学前の触れ合いも大きな意味がある。）
- ・ 園児と1年生が一緒に座って音読をさせてもらった。園児の文字への関心

や絵本への興味を高めることにつながっていった。（今後、絵本と教科書のつなげ方も工夫していくべき課題であろう。また、幼稚園における早期教育につながらないように留意することが必要である。「一日体験入学」の評価では、方法論のみに走らず、絶えず目的に立ち帰ることが重要である。）

- ・ 「ランドセルを背負わせてもらった」、「牛乳が飲めるようになったなど、園児の体験談から一定の評価ができる「一日体験入学」である。なかでも絵の具をパレットで混ぜて混色を作ることを小学生に教えてもらい、その後の園での造形遊びに生かされていた。

[成果] …小学校の立場から

- ・ 小学校では平素の交流の集大成の場として位置付けている。そのため、小
小
学生にとってはお兄ちゃん・お姉ちゃんという意識・心構えで園児に接し

ており、自分の成長の振り返りの場ともなっている。

- ・ 小学生が自分たちの間での遊びのルールを、園児たちに適したルールに変更して一緒に遊ぶなど、思いやりの心を育む場になっている。
- ・ 小学生が園児にいろいろ教えてあげることにより自信がもて、「一日体験入学」は意義深い取組である。小学生にとっては、企画力や自己肯定感も育つ場となる。

[課題] …幼児教育の立場から

- ・ 小学校によっては「一日体験入学」の意味付けが異なっており、例年通りという発想には幼稚園として違和感を抱く。
- ・ 小学校の授業を参観しても小学生の後ろ姿ばかり見ているので、幼稚園側から要望としてこのことを伝えると、小学校側も配慮して変わっていった。
- ・ 小学生の学習発表会を参観する企画であったが、演じる方も参観する方もいろいろと気配りが求められ、体験入学としての形式としては不適切に感じた。
- ・ 校内の施設巡りに時間を取りすぎている。そのため教室内で過ごす時間が少なかった。幼小が互いに「一日体験入学」の在り方を話し合うことが大切であると思う。

[課題] …小学校の立場から

- ・ 小学校は時間的な制約がある。入学説明会とセットになっているなど、過密スケジュールである。「一日体験」と言っても時間的にも90分程度しかとれない実態である。十分なねらいの達成には時間不足は否めない。
- ・ 「一日体験入学」についての振り返りが十分にできていない。そのため前年通りとなってしまう。(PDCAのCが不十分ということである。活動自体の表面的なイメージ評価だけではいけない。目的に照らした「一日体験入学」にしていけないと成果に結び付かない。PDCAのラインが見えている取組にしていくことが大切である。)
- ・ 本校では校内巡りはやめている。入学後に尋ねても覚えていないという実態があるからである。(校内巡りについての意見は、入学後の学校生活にとまどいを感じさせない最低限の「ここだけは」という空間を精選して、再考してみることも必要である。)

(3) まとめ (善野代表)

○ 本日のワークショップから得られたこと

これまで実践されてきた具体的事例を幼小双方の捉え方を意見交換することで、見えてくるものや見えてくることがある。そうした意義を互いに確認しながら、「一日体験入学」を幼小で作り上げていくことが大切である。その際、絶えずPDCAサイクルのP段階に立ち帰り、適切なDを選択し、Cを効果的なものとしていくことが必要である。

Aは、アクションプランとして、今後の本研究会において、11月から1月に「一日体験」活動案を作成したい。そして、2月の実践化をもとにさらに改善していく予定である。

(4) 参加学生の感想

○一日体験の成果と課題を幼小別に色で分けて、ボードに貼って、近い距離で解説していただくことで、とてもよく理解することができました。

中心に目標があり、目標と関連して考えていくことが大切であることを忘れてはならないと頭の中でラインマーカーをひきました。

筆箱など自己管理しているものを見せてもらうこと・小学生が幼稚園の先生に再度会い認めてもらうことができる、絵本と教科書のつながり等、今日もまた、多くのことを学ぶことができました。

また、課題も、時間が制限されていることや校内探検に時間をかけすぎることとは不必要等、学ぶことができました。

ありがとうございました。

○研究会では、たくさんの保育、教育に関わっている先生方がいらして実際の保育、教育のことを少しだけですが、わかることができました。

2つのことがわかりました。まず、幼稚園と小学校とでの保育者(教師)と園児(生徒)の接し方の違いがわかりました。幼稚園では、子どもにあわせて予定を変えたりすることができます。しかし、小学校ではそういうことはできない。さらに、幼稚園では保育者と園児は1対1が多いのに対して、小学校は教師対大勢であり、園児では初めは「みなさん」と言われても「誰のこと？」というような反応を見せるというところに驚きました。

もう1つは、幼稚園から小学校に引き継いでいることでした。ある幼稚園では先生の部屋に物を借りるために入るときは「失礼します。〇〇を貸してください。」と言わないと園長先生は物を貸さないそうです。これに私は感動しました。幼稚園の時にそういうマナーを体が覚えれば、それは一生自然と使えるんだらうなと思いました。そして、小学校でもそれは同じで、幼稚園の時に教えてもらっている子は言わなくてもできると賞賛していました。あいさつも同じです。小学校に任せっきり、幼稚園に任せっきりなどではなく、できることを教えるというのはとても素晴らしいと思いました。

私は発言するということはできませんでしたが、新たに得たものがとても多く、貴重な体験をさせていただきました。

また、研究会に参加したいと思いました。ありがとうございました。

5 次回の予定

平成24年11月17日(土) 11:00~12:30

※ 毎月定例は、第3土曜11:00~12:30